



第133号

# Web Fairy Paradise

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第 111-9 再出題(再掲)
- ・ 第 112 回 WFP 作品展(再掲)
- ・ 最後のやさしい(?) Imitator【出題編】

結果発表

- ・ 祝改元(令和)作品展

読み物

- ・ 詰将棋全国大会(神無太郎)



2019/7

## はじめに



### 詰将棋全国大会

この次期の話題といえど勿論詰将棋全国大会です。今年は大坂で7月14日に開催されました。私はと言うといつもの通りに暑い体育館で熱いプレーをしておりました。いつになったら日程がずれるんでしょうねえ。

それに合わせてというか、「この詰将棋がすごい! 2019年度版」が発売されました。WFPの巻頭で紹介するには訳があり、中に上谷直希さんの「Web Fairy Paradise がすごい!」という論考が掲載されているんです。(上谷さんご苦勞様でした&ありがとうございました)WFPがすごい!というよりは「WFPに発表されている作品がすごい!」んですが、紹介の仕方もルール別に上谷さんの目に適った作品を数多く紹介されており、勿論フェアリストのみならず一般の方にも読んで頂きたいと思ひます。作品が紹介されている方は1冊注文するともう1冊サービスで頂ける恩恵があるとか。私、本名で注文したので気付かれませんでした(笑)

また全国大会の会場で無料配布(驚き!)されたのが神無太郎氏の「TAROTRAILS」選抜された100作のみならずボーナストラックもありの、創作時の秘話などありのまさにフェアリスト必読の1冊(?)大会にいけなかった私は200円(送料+CD)で購入しましたが、凄ひ内容です。これを見てて自分は作品集を出すのは恐れ多いと思ひました。まだの方はすぐご注文を・・・。

### 作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

### 読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことでも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

### 感想

第133号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん : [takuji@dokidoki.ne.jp](mailto:takuji@dokidoki.ne.jp)

---

### 協力いただいている方々のHPアドレス

\*ご協力感謝します

#### 妖精都市

<http://cavesfairy.gl.xrea.com/pub/>

#### 詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

#### 詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

#### Onsite Fairy Mate

<http://k7ro.sakura.ne.jp/>

#### K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

#### フェアリー時々詰将棋

<http://fairypara.blog.fc2.com/>

#### 占魚亭残日録

<https://sengyotei.hatenablog.com>



# 111-9再出題及び 第112回WFP作品展(再掲)及び 第113回WFP作品展

担当：神無七郎

## 「ビッグバン」の時代

前回、西暦 1970 年をフェアリー詰将棋の「元年」と呼びたいという話をしましたが、その後 1975 年までの 6 年は、いわば「ビッグバン」の時代でした。

私達の住む宇宙は「ビッグバン」という急激な膨張から始まったと言われています。そして「ビッグバン」の 3 分後には早くも単純な原子核が生成されました。驚くほど短時間で私達の世界の基礎が出来上がったわけです。

「ばか詰」(協力詰)も 1970 年から 1975 年の短い期間で質・量ともに急激な発展を遂げました。多くの才能がこの新分野に参入し、綺羅星のような成果を上げたからです。

その急激な発展を示す具体的な証拠として各年の最長手数作品のリストを見てみましょう。手数と作品価値は必ずしも連動しないのですが、数を指標とすることで「ばか詰」の急速な発展が明確に感じられると思います。

発表年月	手数	作者	備考
1970年6月	163	加藤徹	原図は早詰
1971年4月	263	加藤徹	
1972年9月	785	鮎川哲朗	
1973年10月	1323	鮎川哲朗	原作意は1783手
1974年8月	5321	加藤徹	原作意は5409手
1975年9月	19447	加藤徹	原図は早詰(18799手)

1975 年、「寿限無」と名付けられた 19447 手の超長手数作品の出現により、「ばか詰」はその頂点を迎えました。その後、作家達の関心は次第に別のルールに向かっていきます。

このように、ある時期、あるルールに人気が集出し、短期間に発展を遂げ、ある程度手筋や構想の発掘が終わると、潮が引くように作家達が離れ、下火になるパターンは、フェアリーで何度も繰り返されてきました。

しかし、「ばか詰」は手の選択に関わる基幹ルールなので、流行が終わっても、消え去ることはありませんでした。単独、あるいは他のルールとの組み合わせで、今もフェアリーの基礎の

役割を担っています。現在「協力詰」とも呼ばれる(WFP 作品展ではこの呼称を用います)このルールは、フェアリーの世界の「原子」の一つとして遍在し、多様な化合物を生み出しているのです。

また、この時代に発表された作品には、今もなお未解決の問題が残されています。

例えば 1973 年 10 月に発表された鮎川哲朗氏の以下の作品は、最短手数が明確になっていません。発見されている最短解は 1323 手ですが、これより短い詰手順が存在しないという証明は得られていないのです。

### 【参考】最短解不明の作品の例

鮎川哲朗 作

ばか詰 1323手?

9 8 7 6 5 4 3 2 1

皇	科	爵	香	馬	香	爵	科		一
金	歩	飛	金		銀	銀	馬	皇	二
香		歩	歩	桂	歩	桂	歩		三
ス									四
									五
王									六
	ス	ス	ス					飛	七
ス	ス	ス	ス						八
ス	皇							王	九

持駒 歩4

(1973年10月,詰将棋パラダイス)

この作品に対するコンピュータを用いた調査結果は「ばか詰中長編 検討結果報告(10)」

(<http://k7ro.sakura.ne.jp/report/hlprep10.html>) にまとめていますが、発表から半世紀近く経った現在でも、完全検討の目途は立っていません。

無論、最短解が不明の作品は上図だけではありません。本当の意味で「ばか詰」(協力詰)の真髄に迫るには、人類は——その知性の延長であるコンピュータの力を加味しても——まだ力不足なのです。

さて、今回の WFP 作品展はまたまた大量出題。実質解答者ゼロとなった 111-9 の解答再募集分と、第 112 回分の再掲載、そして第 113 回分の新規出題です。第 113 回には数学絡みの問題もありますが、解き方は厳密でなくても構いません。答えが合っていればどんな解き方でも

OK な詰将棋流で行きたいと思います。

#### 〔111-9 への補足説明〕（再掲）

**111-9** は一乗谷醉象氏の推理将棋。氏が本作品展に投稿する推理将棋は、「究極の手順」を求めるタイプの作品が多いのですが、本作も連続逆王手 28 回（最初の王手も入れると 29 連続王手）という、途轍もない手順を求める問題です。条件が 10 個もあるので大変そうに見えますが、まずは最初の 2 つの条件を満たす解を求めてください。この 2 つを満たす解は準正解として 1 点、すべての条件を満たす解は 2 点で解答成績に計上します。連続逆王手のイメージが湧かない方は、「おもちゃ箱」の「記録に挑戦!」「4-2 1 連続逆王手回数」(<http://www.ne.jp/asahi/tesu/toybox/challenge/index4.htm#kiroku4c>) が参考になるとと思います。

#### 〔第 112 回作品展各題への補足説明〕（再掲）

第 112 回の出題は全 17 題。複数解を求める作品もあるので実質 19 題です。内訳は神無太郎氏 4 題、占魚亭氏 6 題（実質 8 題）、Pontamon 氏 2 題、変寝夢氏 4 題、青木裕一氏 1 題です。大量の作品に圧倒されますが、解等募集期間も通常より一ヶ月長いので、この時間を有効に活用して解図を行ってください。

**112-1**～**112-3** 及び **112-4** は神無太郎氏の作品。このうち **112-1**～**112-3** はシリーズで出題されている Imitator+中立駒の作品です。玉以外の駒がすべて中立駒になっているという問題設定も共通しています。かなり手応えがある作品群なので、過去のシリーズ作品を参考に解いてください。

**112-4** はこれらシリーズ物とは独立の作品。「結婚したのが平成元年 5 月で結婚 30 周年記念です」とのことなので、お祝いにぜひ解答をお寄せください。この作品では Knight（騎）と Rook-Grasshopper（城）という 2 種のフェアリー駒が使われており、攻方玉は騎の利き、受方玉は城の利きになっています。各玉は騎と城の偏を「王」にした「琦」と「城」で表しています。単純に言えば、強力な 46 の八方桂をどうやって包囲するかという問題ですね。

**112-5**～**112-10** は占魚亭氏の点鏡作品。このうち **112-8** 及び **112-9** は 2 解あるので、なるべく両方の解を求めてください。**112-5**～**112-9** はどちらかと言えば練習問題的ですが、**112-10** は点鏡で Imitator を使うという新しい試みです。

なお、Imitator は「性能」を持っていないので、点鏡ルールの適用対象外です。Imitator と対称位置にあるからといって、Imitator と通常駒が「性質」を交換することはありません。

**112-11** と **112-12** は Pontamon 氏の推理将棋。両方共角の使い方が鍵を握っています。**112-11** は軌跡の「交差」と「重なり」がなかったという条件があり、この2つの用語について作者自身による詳しい説明が付いています。条件 3)にも注釈があるので、ここに掲載します。

### [112-11 補足説明]

#### ※ 1 軌跡の交差と重なりについての説明

- ・▲33 角不成の後に 55 へは戻れない。また、33 の先手角が移動した後、後手の△55 角も不可（どちらも軌跡が重なる）
- ・先手の▲33 角不成の軌跡に対して後手の 53 の角が△44 角や△35 角は交差なので不可
- ・▲33 角不成を△同角とは取れない（同一地点や軌跡の地点への着手は交差と見做す）
- ・▲33 角不成の後で▲22 角成とか▲24 角成は自分の継続手なので 33 地点は交差とは見做さない
- ・移動する前の初期配置の角を角や馬で取るのは可（まだ軌跡になっていないので）
- ・角を打つ手は移動としてはカウントしない

※ 2 相手が動かした駒が居た地点への着手ではない。初手 76 歩で 3 手目 77 桂は不可。77 桂は 5 手目以降であれば可。

**112-12** には棋譜に「角左」及び「馬左」という表記があったという大きな情報があるので、この情報をフル活用して解いてください。見た目はずいぶん違う 2 作ですが、両方解くと、共通点を感じられると思います。

**112-13**～**112-16** は変寝夢氏による様々なルールの作品群。

**112-13** は只今大流行の点鏡作品。持駒は歩 2 枚だけですが、これでも自玉を詰めるのに困らないというのは点鏡らしい所ですね。

**112-14** は作者お得意の「リパブリカン」ですが、更に Leo というフェアリー駒を使っています。これは中国象棋の Pao を Queen 方向の利きに拡張した駒です。表記は Pao と同じく「包」

を使っていますが、これは便宜上のことなので、利きは Leo だということを忘れないでください。受方持駒制限もありますし、初手の王手が 2 通りしかないので、意外と手を付けやすい作品だと思います。

**112-15** はレトロ協力詰。20 手逆算して 1 手詰を作れという問題です。逆算手数は長いですが、詰型の想定さえ誤らなければ容易に解ける問題だと思います。

**112-16** はボカスカ+中立駒の長編。ボカスカと中立駒の組み合わせでは北村太路氏の作品（WFP84-7、WFP100-8）や、変寝夢氏自身の作品（WFP103-10）がありますが、これらはいずれも中立駒同士が同期して動くものでした。本局では中立駒と通常駒の同期が試みられています。つまり、同種の中立駒と通常駒は「手番」が通常駒の所属と一致するときに同期して動くというルール設定です。このようなルール設定からどんな手順が現れるか、実際に解いて確かめてください。

**112-17** は青木裕一氏による「駒余り禁」の作品。詰上りで攻方の持駒が余る解答は失敗です。ただし、「詰」の概念自体を変えるものではありません。あくまで手順の最後で攻方持駒が余る手順を失敗とするだけです。以前、fm では「限定」（駒を余らせず指定手数で詰める）というルールがサポートされていましたが、「駒を余らない」と「指定手数ぴったりで」は別の概念なので、今はこの2つを分離しています。fmza では「駒余り禁」は「!NPL」、「手数指定」は「!JD」で指定できるので、興味のある方はお試しください。

### [第 113 回作品展各題への補足説明]

第 113 回の出題は全 15 題。複数解を求める作品もあるので実質 17 題です。内訳は、くろねこ氏 2 題、神無太郎氏 3 題、占魚亭氏 3 題、一乗谷酔象氏 1 題、Pontamon 氏 1 題、青木裕一氏 2 題、変寝夢氏 2 題、たくぼん氏 1 題です。長編や数学絡みの問題もありますが、見かけと難易度は必ずしも一致しないので、とりあえずは手を出してみることをお勧めします。

**113-1** 及び **113-2** は、くろねこ氏の長編協力自玉詰作品。くろねこ氏が本誌初登場なのか、ハンドルネームを変えただけなのか、実は担当も知りません（敢えて尋ねませんでした）。作品

内容や完成度から想像を膨らませるのも一興だと思います。

**113-3**～**113-5** は神無太郎氏による数学絡みの問題。今回は「素数」が主題です。

使用されている変則駒は2種あります。

まずはPrime-Leaper(P)を紹介しましょう。

**【Prime-Leaper】(P)**

移動距離が任意の素数である無限複合八方桂。

$$\text{Prime-Leaper} = (0,2)\text{-Leaper} + (0,3)\text{-Leaper} + (0,5)\text{-Leaper} + (3,4)\text{-Leaper} + (0,7)\text{-Leaper} + (0,11)\text{-Leaper} + \dots$$

	○		○		○	○		P
								○
			○					○
				○				
								○
								○

(○がPの利き)

上図は9×9の通常の盤にPを置いた時の利きを示しています。**113-3** と **113-4** は盤の大きさが無限なので、上図に表されていない利きについても考える必要があります。

説明だけでは実感が湧かないと思いますので、実際に例図をご覧くださいませ。

**〔例題1〕** 神無太郎氏作

左下無限盤成禁協力詰3手

	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
											王
											二
											三
											四
											五
											六
											七
											八
											九
											一〇

攻方持駒 P2  
 受方持駒 残り全部+P2  
 ※P:Prime-Leaper

上図は10筋・十段目までしか表示されていませんが、そこから先も盤はどこまでも広がっているものと思ってください。また、受方持駒にPが2枚ありますが、これは神無太郎氏が好んで使う「手数分のフェアリー駒を持たせる」問題設定です。必ずしも全てのフェアリー駒が使われるとは限りません。

例題1の解答・解説に移る前に、もう一つ説明事項があります。

**113-3** と **113-4** はどちらも複数の玉を使用しています。「二玉詰」は本作品展にも何回か登場していますが、「二玉スタイルメイト」は初めてですね。二玉（または多玉）のスタイルメイトの定義は「どの玉にも王手が掛かっておらず、合法手がない状態」となりますが、具体的な図を使って、この意味を説明したいと思います。

**〔例題2〕** 二玉（多玉）スタイルメイトの例

二玉協力自玉スタイルメイト 2手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				王		王	王	一
								二
								三
								四
								五
								六
					飛			七
								八
								九

持駒 銀

42 銀 同飛生 まで 2手

(最終形)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				王		王	王	一
					飛			二
								三
								四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒 なし

飛を二段目に呼んで、攻方玉を二枚とも動けなくしました。攻方には合法手がなく、これでスタイルメイト達成です。

ところで、2手目同飛生ではなく同飛成としたらどうなるのでしょうか？

(参考図)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				王		王	王	一
					飛			二
								三
								四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒 なし

21 王は詰んでいます、11 王には王手は掛

かっていません。11 王だけ見ればスタイルメイト状態なので、これもスタイルメイトなのでしょう？

もちろん、そのような定義も可能だと思いますが、WFP 作品展ではその定義は採用しません。というのは、この状態では 21 玉が詰んでいるため「二玉詰」と区別ができないからです。

では、少し戻って例題 1 の解答に移ります。

【例題 1 解答】

42P 11 玉 41P まで 3手

(詰上り)

5 4 3 2 1

		P			王	一
		P				二
						三
						四
						五

持駒 なし

ご覧の通り、玉から 3マス分離れた位置に、Pを2つ並べれば、玉の逃げ道はなくなります。Pはリーパーなので、合駒もできません。従ってこれで詰みです。たとえ盤の大きさが無限でも、Pの打場所が唯一に限定されるのが本局の特徴です。

しかもこれは「差が1の素数の組は2と3の一組しかない」という素数の性質を詰将棋に応用しています。「差が2の素数(双子素数)の組は無限にある」と予想されているのとは対照的です。はたして、今回出題されている問題には、素数のどんな性質が使われているのでしょうか？

また、113-5 ではPを元にした別の変則駒が使われています。

【Torus-Prime-Leaper】(素)

盤があたかもトーラス盤であるかのように動くP。

この駒にとっては盤がトーラス(ドーナツ型の表面に盤が張り付いている姿を想像してください)に見えているので、通常なら盤からはみ

出す利きも盤内に戻ってきます。またこの駒は、それが置かれる盤の大きさや形状によって利きの分布が変化します。**113-5** は、チェス盤のような  $8 \times 8$  盤で「素」の利きを持つ玉を詰める問題ですが、「素」の利きの分布がどうなっているかは、敢えて示しません。詰手順だけでなく、 $8 \times 8$  盤で「素」の利きが具体的にどうなるかもお答えください。

盤をトラス盤とみなして動く駒は第 103 回 WFP 作品展 (WFP121 号) にも登場しています。利きの分布を求める時の参考になるはずですので、未見の方はぜひご一読ください。

また、「Passatismo/Neophilia ～懐古主義の新しもの好き～」というブログの「ピタゴラスの定理を使った変則チェス 2」(<http://akasaka0x16.blog.fc2.com/blog-entry-185.html>) という記事で「Prime」という駒が紹介されていますが、これは今回使う P とは別物です。この記事を読んだ方は、混同しないようご注意ください。

**113-6**～**113-8** は占魚亭氏の作品。本当はもっとたくさんの投稿をいただいたのですが、分量の関係で今月の出題を 3 題に絞って貰いました。その分、特に力が入った 3 作が選ばれていると思います。主要ルールは AntiAndernach+Imitator、All-in-Shogi、点鏡+All-in-Shogi。各題ごとに異なっているので、思考の切り替えが重要です。どれも難しそうなのでヒントを出しましょう。**113-6** は AntiAndernach なので、駒を 2 回動かせば元の所属に戻ることを念頭に置いてください。**113-7** と **113-8** は All-in-Shogi なので「例の詰上り」を目指すのが吉です。**113-8** は 2 解作品なので、なるべく両方の解を求めてください。

**113-9** は一乗谷酔象氏の推理将棋。本誌の熱心な読者なら、この条件に既視感があるかもしれません。もし解図に行き詰まったら、既刊を読み返してヒントを探してください。

**113-10** は Pontamon 氏の簡潔な推理将棋。条件が少な過ぎて会話でなく、独り言になっています。「23 歩成」で詰む筋は有名な 7 手詰がありますが、これが「23 同と」になるとどうなるか、興味深いですね。

**113-11** 及び **113-12** は青木裕一氏の点鏡作品。超短編と長編趣向作です。これはぜひノーヒン

トで解いてください。

**113-13** 及び **113-14** は変寝夢氏の作品。リパブリカンと All-in-Shogi の超短編で、比較的易しいと思います。**113-13** は 2 解作品なので、なるべく両方の解を求めてください。

**113-15** はたくぼん氏の石囲いシリーズ最新作。この初形だと 18 王は動けないので、詰型は限られます。正しく詰上りを想定し、その形に持っていく段取りを立て、最も効率的な手順を選択する……難しいかもしれませんが、地道に粘り強く取り組めば、きっと解けるはずです。

### 解答要項

**111-9(再)分解答締切**:2019 年 8 月 15 日(木)

**第 112 回分解答締切**:2019 年 8 月 15 日(木)

**第 113 回分解答締切**:2019 年 9 月 15 日(日)

**宛先**: [k7ro.ts@gmail.com](mailto:k7ro.ts@gmail.com) (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

解答メールが届かない場合は掲示板 (<http://k7ro.sakura.ne.jp/wait.html>) やブログ (<http://k7ro.sblo.jp/>) でお知らせください。

### 作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。(原則として毎月 15 日の投稿まで当月号に掲載します。)宛先は解答と同じ [k7ro.ts@gmail.com](mailto:k7ro.ts@gmail.com) へ。

メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

## ルール説明

※WFP のページにまとめ資料 (<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule112.pdf>) があるので、それも参考にしてください。

### 【推理将棋】

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

### 【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

### 【Imitator】(■またはI)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

(補足)

- ・駒を打ったときは動かない。
  - ・Imitator は元の駒と同時に動く
- 参照：WFP75号「Imitatorの紹介」

### 【中立駒】(「」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。  
取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる(利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも 自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

→参照：WFP61号「中立駒の紹介」

### 【スタイルメイト】

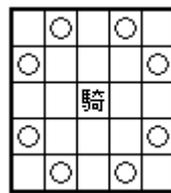
王手は掛かっているが合法手のない状態にする。

### 【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイトにする。

### 【Knight】(騎)

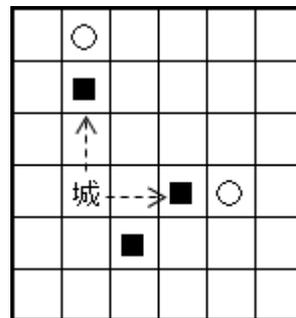
チェスの Knight。八方桂。



(○が騎の利き)

### 【Rook-Grasshopper】(城)

Grasshopper の動きを縦横に制限したもの。縦または横方向にある駒を1つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。



(■は何らかの駒。  
○が城の利き)

### 【受先】

受方から指し始める。

### 【点鏡】

55 に関して点対称な位置にある 2 つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

(補足)

- ・行き所のない駒の禁則は適用されない
  - ・**Imitator に点鏡ルールは適用されない**
- 本誌初出: 第 108 回 WFP 作品展(WFP127 号)

### 【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

### 【リパブリカン】

最終手を指すと同時に任意の空きマスから一つ選んで玉を置き、詰んでいる局面を作る。

(補足)

- 1) 双玉等において詰める対象でない玉は通常の玉と同じく、最初から最後まで盤上に存在する
- 2) 詰める対象の玉は「盤上にあるが見えない」わけではなく、詰むときに盤に出現する。従って玉がどこかにいる前提での着手の合法・非合法の判定は行わない。ただし、最終手で

は玉を置いた後の配置で合法局面かどうかの判定を行う。

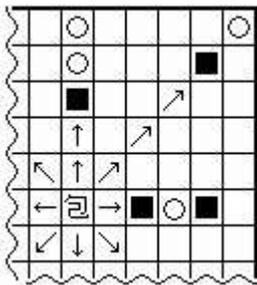
- 3) 単玉の場合最終手を除き王手義務はない。自玉系のルールのように、詰める対象の玉と王手義務の対象となる玉が異なる場合は、王手を掛けるべき玉に対する王手義務がある。

→参照：WFP92号「リパブリカン詰の紹介」

**【Leo】(包)**

フェアリーチェスの Leo。

中国象棋の Pao の利きの方向をクィーンにしたもの。駒を取らずに動く時はクィーンと同じ。駒を取る時はクィーンの方に1枚だけ駒を跳び越えて動く。



(矢印が Leo の動く方向。○は Leo が駒を取る時の利き。■は敵または味方の駒。駒を2枚跳び越すことはできない。)

→本誌初出：第 68 回 WFP 作品展(WFP77 号)

**【レトロ -m+n 手】**

m 手逆算して n 手で詰む手順を求める。  
(補足)

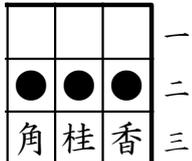
- 1) 特に注釈のない場合、逆算も攻方王手義務があることを前提とする
- 2) 協力系の場合逆算も双方が協力する。また、指定より短い手数逆算や短い手数の詰手順が成立する場合、それが優先される。

→本誌初出：第 36 回 WFP 作品展(WFP39 号)

**【石】(●)**

不透過・不可侵の領域を表す。  
飛び越すことは可能。

3 2 1



例えば左図で、  
一 12 香や 11 香成は不可。  
二 22 角や 11 角は不可。  
三 11 桂成や 31 桂成は可。

**【ボカスカ】**

盤上にある同じ所属の同じ種類の駒は、すべて同時に同一方向に動かす。

(補足)

- 1) 成駒と生駒は別種とみなす
- 2) 動かせない駒があれば動かせるだけ動かす。
- 3) 成・不成は1枚毎に自由。持駒も同じ種類の

駒はすべて同時に打つ。

- 4) 歩だけは例外で打つのも動くのも単独。

**5) 中立駒と現手番の駒は、同じ所属の駒として扱う**

→本誌初出：第 71 回 WFP 作品展(WFP81 号)

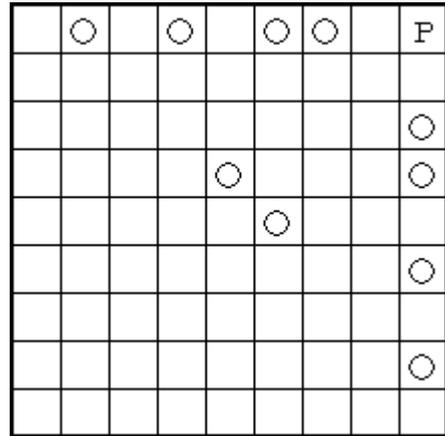
**【駒余り禁】**

最後に攻方持駒が余ってはいけない。

**【Prime-Leaper】(P)**

移動距離が任意の素数である無限複合八方桂。

Prime-Leaper = (0,2)-Leaper + (0,3)-Leaper + (0,5)-Leaper + (3,4)-Leaper + (0,7)-Leaper + (0,11)-Leaper + ...



(○がPの利き)

**【左下無限盤】**

拡大盤の一種。左及び下方向に無限に広がった盤を使う。

**【二玉(多玉)協力自玉スタイルメイト】**

先後協力して最短路で攻方をスタイルメイトにする。どの玉にも王手が掛かっているはならない。

**【成禁】**

手順中に成の手があってはならない。  
(補足)

- ・あくまで手順中に「成」が出ないだけ。「詰」や「王手」の概念は通常通り。

**【Isardam】**

同種の敵駒の利きに入る手を禁止する。玉を取ると同種の敵駒の利きに入る場合は王手とみなさない。(タイプA)

(補足)

- ・玉を取るとき敵駒の利きに入るかどうかを問わない場合は、「タイプB」。
- ・成駒と生駒は別種の駒として区別する

**【二玉詰(多玉詰)】**

複数の玉を使用する。

どの玉に対しても王手放置は禁手。

王手を外せなければ詰み。

→本誌初出:第41回WFP作品展(WFP45号)

### 【Torus-Prime-Leaper】(素)

盤があたかもトラス盤であるかのように動くP。

(補足)

・盤の形状によって利きの分布は変化する。

### 【8×8盤】

変則盤の一種。8筋8段の盤を使う。

(補足)

・一般に変則盤は可成地域の指定も必要だが**113-5**は「成禁」の指定があるため、可成地域の指定は不要。

### 【AntiAndernach】

駒を取らない盤上の移動(駒を取る及び持駒を打つ以外の着手)を行うと、着手後に相手の駒となる(玉を除く)。

(補足)

- ・細則はAndernachと同様で「駒取り」を「駒を取らない盤上の移動」に読み替える。
- 1)駒を取らない盤上の移動で二歩になる場合相手の駒にならない
  - 2)駒の向きの転換は成生の選択の後に行われる
  - 3)駒を取らない盤上の移動の場合に限り、8段目への桂の不成、9段目への桂香歩の不成が可能(二歩の例外を除く)

→本誌初出:第60回WFP作品展(WFP68号)

### 【All-in-Shogi】

双方とも、自分の手番のときに相手の駒を動かすこともできる。敵玉を王手がかかる位置に動かしてもいいし、敵の持駒を打ってもいい。ただし、双方とも1手前の局面に戻すような着手は禁手とする。

(補足)

- 1)相手側の駒を動かすとき、自分側の駒を取らせることはできるが、相手側の駒を取らせることはできない
- 2)相手側の駒で自分側の駒を取らせたとき、その駒は相手側の持駒となる
- 3)自玉を取らせる手は反則

→参照:WFP122号「All-In-Shogiの紹介」

<111-9(再)>解答締切:2019年8月15日(木)

■ 111-9 一乗谷酔象氏作

### 推理将棋『平成の逆王手定跡』

博士「新定跡の研究は進んでいるかな。たまには一局やるか」

助手「はい。私の先手番でお願いします」

…31手目先手着手の後、32手目後手の手番で…

博士「初王手。目の薬」

助手「目には目を。王手には王手を」

博士「王手！」

助手「王手！！」

…60手目後手の手番で…

博士「王手!!!!!!!!!!!!!!」

助手「あ。詰みですね。負けました。感想戦をお願いします」

博士「この将棋、先手は4連続で歩の手を指し、後手は5連続で玉の手を指したな」

助手「同種の駒の利きへの着手が10回あり、"同"の付く着手が17回ありました。そして、銀の手より後に金の手はありませんでした」

博士「31手目まで王手がなかったが、次の手から新しい展開になった。29回も王手が続いて、28連続逆王手とは驚いたよ」

助手「不成の手が20回、両王手が1回、3筋の手が9回でした」

博士「まさに2019年、平成31年に相応しい対局。平成の逆王手定跡の誕生だ」

### 【条件】

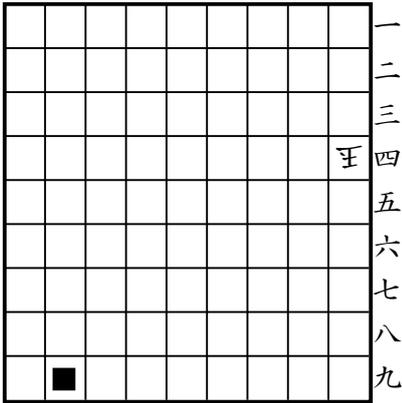
- ① 60手目に29回目の王手で詰んだ
- ② 31手目まで王手はなかった(32手目が初王手)
- ③ 不成の手が20回
- ④ 両王手が1回
- ⑤ 3筋の着手が9回
- ⑥ 先手は4連続で歩の手を指した
- ⑦ 後手は5連続で玉の手を指した
- ⑧ 同種駒の利きへの着手が10回
- ⑨ "同"の付く手が17回
- ⑩ 銀の手より後に金の手はなかった

<第 112 回>解答締切:2019 年 8 月 15 日(木)

■ 112-1 神無太郎氏作

協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 n香

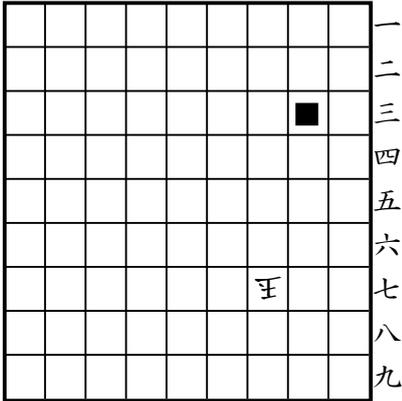
※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

■ 112-2 神無太郎氏作

協力詰 7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 n香

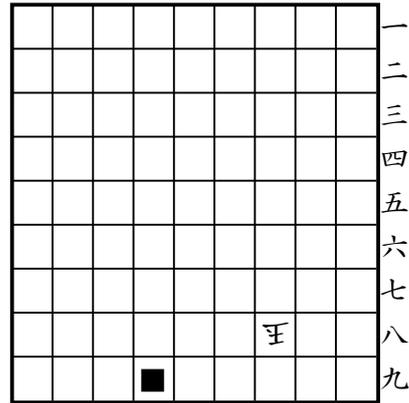
※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

■ 112-3 神無太郎氏作

協力詰 7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 n角n金

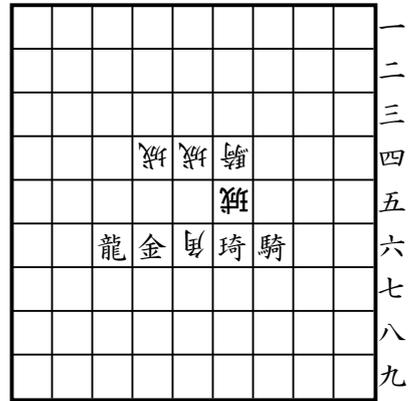
※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

■ 112-4 神無太郎氏作

協力自玉スタイルメイト 10手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



攻方持駒 なし

受方持駒 残り全部+騎2城2

※騎:Knight王

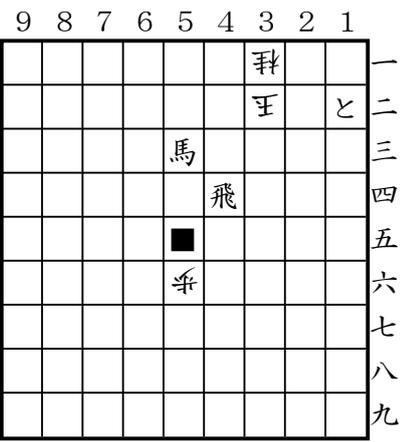
騎:Knight

城:Rook-Grasshopper王

城:Rook-Grasshopper

■ 112-5 占魚亭氏作

協力詰 3手

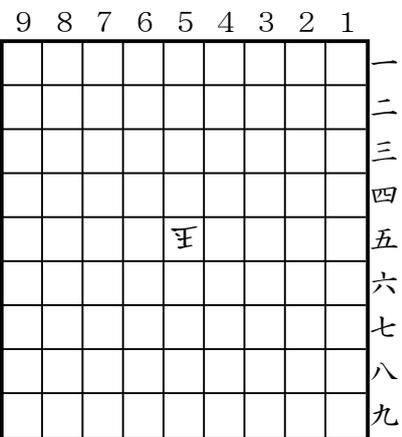


持駒 なし

※■:Imitator

■ 112-6 占魚亭氏作

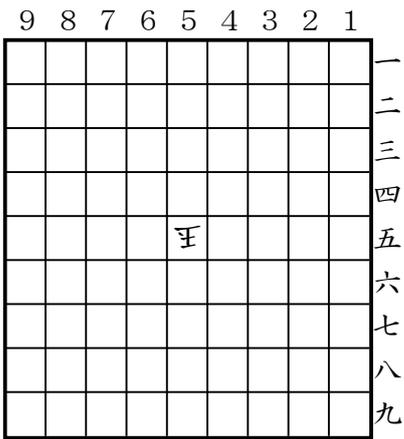
点鏡協力詰 4手 (受先)



持駒 銀桂

■ 112-7 占魚亭氏作

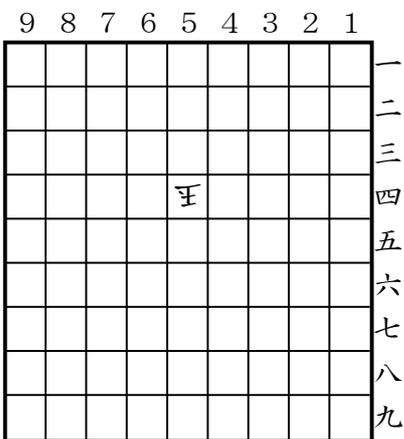
点鏡協力詰 4手 (受先)



持駒 桂歩

■ 112-8 占魚亭氏作

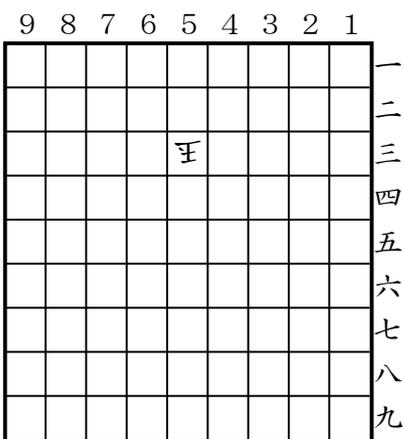
点鏡協力詰 4手 (受先、2解)



持駒 桂香

■ 112-9 占魚亭氏作

点鏡協力詰 6手 (受先、2解)

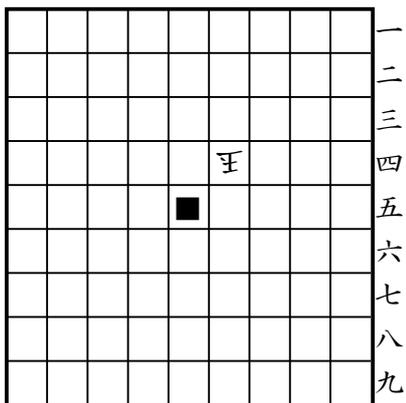


持駒 金

■ 112-10 占魚亭氏作

点鏡協力詰 6手 (受先)

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 銀

※■:Imitator

■ 112-11 Pontamon 氏作

推理将棋

「盤上から盤上への角移動と馬移動の手が多かったね」

「うん、それぞれ3回ずつだったけど、着手した筋が全て別々で、しかも連続する6つの筋だった」

「11手で詰んだから半数以上が角や馬の移動で、面白いことにそれらの6本の移動軌跡は交差することも部分的に重なることなかったね」※1

「面白いと言えば、自分で動かした駒が居た地点への着手が3回あったけど、すぐ次の手番でそこへ指すことはなかった」※2

[条件]

- 1) 11手で詰み
  - 2) 角移動3回と馬移動3回の6手は連続する6つの筋へ1回ずつあり、角と馬の移動軌跡6本は交差も重なりもしなかった ※1
  - 3) 自分で動かした駒が居た地点への着手3回は次の手番での着手ではなかった ※2
- (※1及び※2についての詳細は補足説明を参照のこと)



■ 112-12 Pontamon 氏作

推理将棋

「10手目の寄る手に対して寄る手で応じて11手で詰めたよ」

「寄るとか引くとかよく言うけど棋譜には記入されないときもあるよね」

「棋譜と言えはこの対局の棋譜には角左や馬左の文字があるよ」

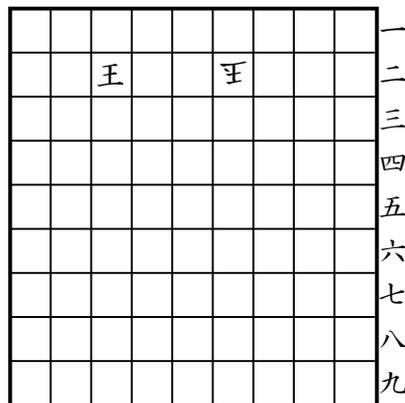
[条件]

- 1) 11手で詰み
- 2) 10手目の寄る手に対して寄る手で応じた
- 3) 棋譜には角左や馬左の文字がある

■ 112-13 変寝夢氏作

点鏡協力白玉詰 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

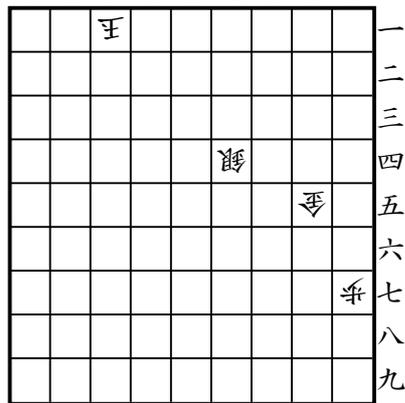


持駒 歩2

■ 112-14 変寝夢氏作

リパブリカン協力白玉詰 14手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



攻方持駒 包

受方持駒 なし

※包:Leo (Q利きの包)

■ 112-15 変寝夢氏作

レト口協力詰 -20+1手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一	
										二	
										三	
										四	
										五	
										六	
										七	
										八	
金										銀	九

攻方持駒 なし  
受方持駒 なし

■ 112-16 変寝夢氏作

ボカスカ協力自玉詰 136手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

將										一	
										二	
●	●	●	●	●	●	●	●	●		三	
銀	●	●							●	四	
		●		●						五	
王	●	●		●	●	●	●	●		六	
●	●		●						歩	七	
		飛								八	
										王	九

持駒 なし  
※94銀は中立駒  
●:石 (着手不可、不透過)

■ 112-17 青木裕一氏作

駒余り禁協力詰 31手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
							と	銀	歩	五
			角	飛	歩	香			又	六
										七
							王		王	八
							歩	歩		九

攻方持駒 歩2  
受方持駒 なし

<第 113 回>解答締切:2019年9月15日(日)

■ 113-1 くろねこ氏作

協力自玉詰 392手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								皇		一
				将		科		将		二
				将		王	歩	金		三
								香		四
					將			王		五
										六
							香			七
								桂	桂	八
										九

攻方持駒 飛2 桂 歩17  
受方持駒 香

■ 113-2 くろねこ氏作

協力自玉詰 690手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										飛	一
											二
金	金						將				三
桂	桂	金								皇	四
										王	五
桂	王	皇									六
香		桂	銀								七
		角	銀								八
香	銀										九

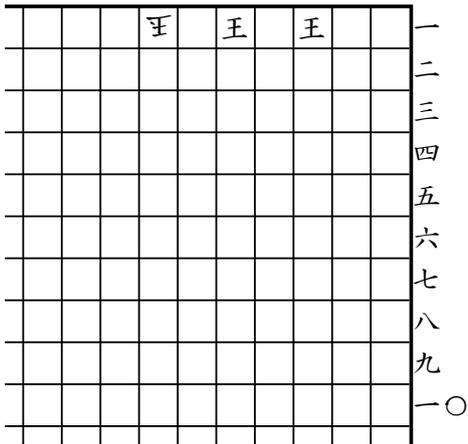
持駒 香 歩18

■ 113-3 神無太郎氏作

左下無限盤成禁二玉

協力自玉スタイルメイト7手(受先)

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1



攻方持駒 飛角

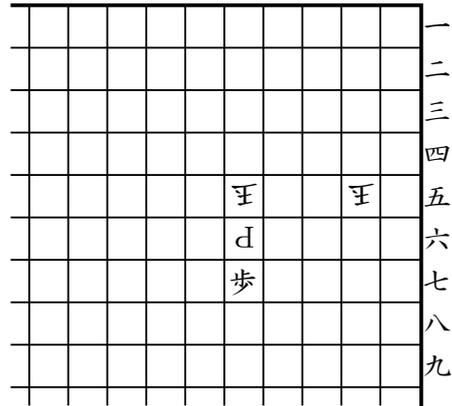
受方持駒 残り全部+P4

※P:Prime-Leaper

■ 113-4 神無太郎氏作

左下無限盤成禁 Isardam 二玉協力詰3手

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1



攻方持駒 なし

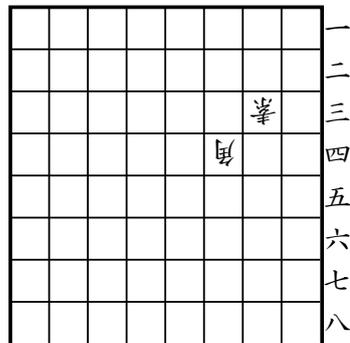
受方持駒 残り全部+P3

※P:Prime-Leaper

■ 113-5 神無太郎氏作

8x8盤成禁協力詰5手

8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 飛2角

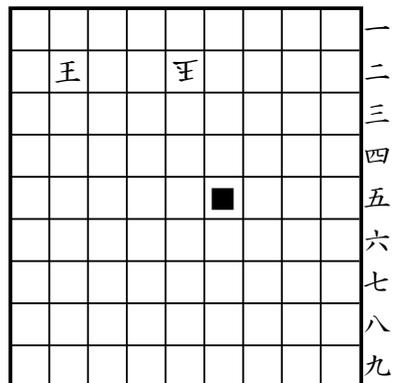
※素:Torus-Prime-Leaper王

■ 113-6 占魚亭氏作

成禁 AntiAndernach

協力自玉スタイルメイト6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 金

※■:Imitator

■ 113-7 占魚亭氏作

All-in-Shogi協力自玉詰 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
						王		王	六
									七
									八
									九

持駒 飛

■ 113-8 占魚亭氏作

点鏡All-in-Shogi協力詰 5手 (※2解)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
			飛						三
									四
									五
						王			六
									七
									八
			●						九

持駒 銀

※●:石 (着手不可、不透過)

■ 113-9 一乗谷酔象氏作

推理将棋

「さっきの将棋、15手で負けちゃった。開き王手を掛けて勝ったと思ったら不成の手で逆王手の詰みとは参ったよ。」

「どんな将棋だった」

「先手は9手目に玉を動かしたね。こっちは一枚の駒を5回連続で動かした。あと、銀頭の手があったね」

[条件]

- 1) 15手目に不成の手で詰んだ
- 2) 14手目は開き王手
- 3) 9手目は玉の手
- 4) 後手は一枚の駒を5回連続で動かした
- 5) 銀頭の手があった

■ 113-10 Pontamon 氏作

推理将棋

「今日の対局は、13手目の"23 同と"で詰めたよ」

[条件]

- 1) 13手目の"23 同と"の手で詰み

■ 113-11 青木裕一氏作

点鏡協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
			角	角					三
		科		科					四
		科		王	科				五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

■ 113-12 青木裕一氏作

点鏡協力詰 71手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

						歩		王	一
									二
						歩			三
						桂	銀		四
						香	銀		五
						香	銀		六
						香	銀		七
王	歩					香	銀		八
科	科	歩					歩		九
王							王		九

持駒 なし



「第 51 回神無一族の氾濫」投稿作品募集

「第 51 回神無一族の氾濫」への参加を募ります。今回のお題は「局面の局所的な変化」です。

局面の小さな変化が大きな効果を生む演出は非常に効果的です。例えば「先打突歩詰」は持駒を盤上の置駒に変えて打歩詰を打開します。「持駒変換」は持駒の種類を変えて局面を進展させます。他にも駒の所属や手番など、変化させる対象や、変化を実現する手段によって様々な表現が可能です。

そこで今回は、局面の局所的な変化をクローズアップした作品を募集します。もちろん、容易に実現できる変化では効果は薄いので、ある程度の手数や意外性を伴う変化が望まれます。また、フェアリーならではの变化対象・手段を有する作品を特に歓迎します。

また、1 題通常の協力詰（ばか詰）を募集します。今回のお題に該当する作品であれば、優先して採用します。

作品要件	局面の局所的な変化を主題とした作品
募集締切	2019 年 10 月 13 日（日）
募集作品数	4 + 1（ばか詰枠）
送り先	神無七郎（k7ro.ts@gmail.com） 上記宛先へ E-mail でお送りください。
備考	1 人何作でも投稿可。 採否は 10 月 20 日までに通知します。



■ 113-13 変寝夢氏作  
リパブリカン協力白玉詰 4手（※2解）  
9 8 7 6 5 4 3 2 1

								飛		一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

攻方持駒 なし  
受方持駒 n香  
※受方持駒香は中立駒

■ 113-14 変寝夢氏作  
All-in-Shogi協力詰 5手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし  
※●:石（着手不可、不透過）

■ 113-15 たくぼん氏作  
協力白玉詰 102手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

攻方持駒 なし  
受方持駒 なし  
※●:石（着手不可、不透過）

以上

# 最後のやさしい(?) Imitator【出題編】

占魚亭

「やさしい(?) Imitator」ラスト出題です。

去年の秋に開催予定でしたが作品が用意できず、春の開催を目指して準備していたら USB メモリのデータが消失するトラブルが起きて心が折れましたが、気を取り直して作り直し、開催にこぎつけました。

今回も全3問。1と2は易しく、3はちょっと難しいと思いますが、基本のおさらいになると思います。

解けた分だけで構いませんので、解答をお寄せ下さい(ソフトに解かせる・コメントのみも歓迎)。

締切: 2019年8月15日(木)

宛先: 占魚亭 sengyotei@gmail.com まで

## —ルール—

**【協力詰】** 双方協力して最短手数で受方玉を詰める。透かし詰は詰みと認められない。

**【Imitator(■または I)】** 着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

**【受先】** 受方から指しはじめる。

### 第1問

協力詰 2手 (受先)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王					一
									二
									三
		桂			進				四
					■				五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

※■ : Imitator

※ノーヒント。

### 第2問

協力詰 3手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						笛			一
								王	二
						■			三
							金		四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 金

※■ : Imitator

※Imitator を○○に。

### 第3問

協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					季			と	一
						王			二
			■	と					三
					飛				四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

※■ : Imitator

※2手目駒打ち、4手目打った駒が移動。



## 祝改元（令和）記念作品展解答発表

5月1日より新元号「令和」となりました。それを記念しての「祝改元（令和）記念作品展」安易に解けるものから難物まで硬軟取り混ぜてのラインナップで解答期間も2ヶ月とりましたが、解答者は4名とやや伸びませんでした。おまけに余詰2作、作者以外皆転倒した作品ありと大荒れとなりました。こりゃ令和も大変な時代になりそうです。

### 〔改元（令和）記念作品展成績〕（敬称略）

○:正解・余詰解 ×:誤解 -:無解

解答者名	1	2	3	4	5	6	計
橋本孝治	○	-	○	○	○	○	5
占魚亭	○	○	○	-	○	○	5
Larva	○	○	○	×	○	-	4
変寝夢	○	-	-	×	○	-	2

### ① 神無太郎作（正解者4名）

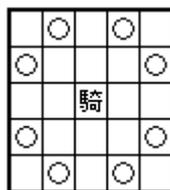
詰将棋1手（※65玉は騎王）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
			角		飛				四
			王	皇	騎				五
			角		飛				六
									七
									八
									九

持駒なし

### 【騎（Knight）】

八方桂の利き



### 【作者コメント】

平成(H)から令和(R)へは必然の跳躍の1手

53 騎 迄 1手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
				騎					三
			角		飛				四
			王	皇					五
			角		飛				六
									七
									八
									九

持駒なし

★ 考える所はありません。王手は2つしかないのですから。H→Rの立体曲詰で令和元年ということで1手詰。この作品だけにでも解答が何十通来るかとも思っていました。が現実にはなかなかそんな訳にはいかなかったようです。

ラルバ

カッコいいの1手立体曲詰です。

Very cute for a mate in one.

変寝夢

短評なし

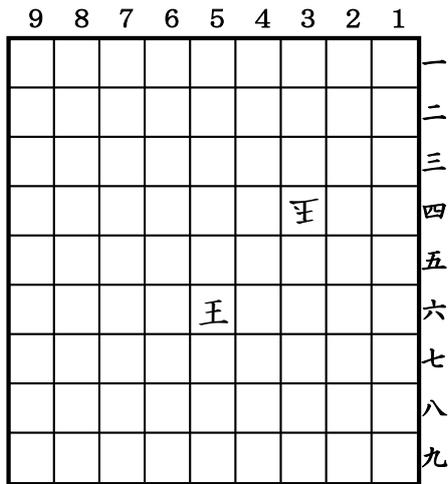
占魚亭

騎は強し。

橋本孝治

HからRへの立体曲詰は必ずあると思っていましたが、たった1手の立体曲詰とは予想外でした。

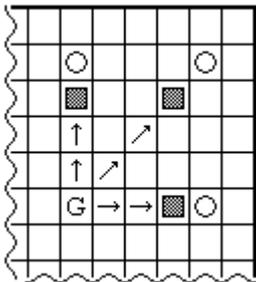
② 神無太郎作 (正解者 2 名・余詰)  
 点鏡協力自玉スタイルメイト 8 手  
 持駒 飛2角2金4銀4桂4香4歩17 G 3



持駒 歩 G

【G (グラスホッパー)】

Q の線上で、ある駒を 1 つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。



【点鏡】

55 に関して点対称な位置にある 2 つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

(補足)

- ・行き所のない駒の禁則は適用されない

【協力自玉スタイルメイト】

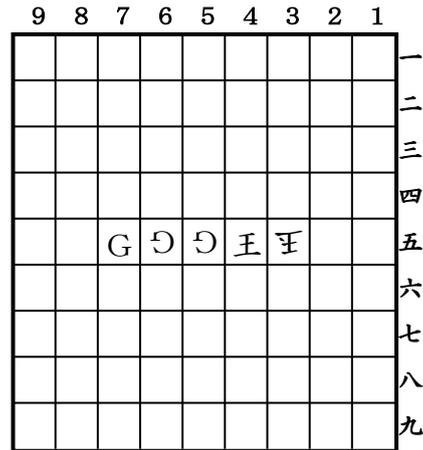
先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト (王手は掛かっているが合法手のない状態) にする。

【作者コメント】

G で飛躍の時代を祈念

35 歩 25 玉 65G 55G 45 王 35 玉  
 75G 65G まで 8 手

詰上図



持駒 なし

★今回の問題作 1。ラルバ氏より打歩スタイルメイト禁手可否による余詰指摘がありました。(余詰手順はラルバ氏の短評参照下さい) 変寝夢氏からも同様の指摘がありました。とりあえず作者に問い合わせた所、

作者

「打歩スタイルメイトを禁手扱いにしていた版の fmza で検討していたのが原因ですね。最新版では禁手にしていない。禁手にするのかわからないのは 2005 年に議論があって、その時に禁手にしないことにしています。ただ、その後、周知が徹底できていなかったのですかね。私自身も検討に使った版の fmza が打歩スタイルメイトを禁手としていることには気づいていたのですが、そういう解釈もあるかなと思っていただけです。2005 年の議論はすっかり忘れていました。というわけで、打歩スタイルメイトは禁手ではないのが普通だということを周知する意味でも、余詰扱いしてもらった方がいいかと思います。お手数おかけしてすみませんが、どうぞよろしくお願い致します。

★Onsite Fairy Mate において 2019/6/21 に fmza.exe 6.007.125 版が登録された際の改定内容が「協力自玉スタイルメイトで最終手打歩が打歩詰と同じ扱いを受けて除外される不具合、及び協力スタイルメイトで最終手の非王手が除外される不具合が修正されています。」とありますのでこの版以前の fmza で

検討されていたようです。

★打歩スタイルメイト禁手問題につきましては、2005年頃に若林さんより問題提起があり「禁手扱いしない」という結論になったようです。打歩詰とは歩を打って”詰める“事です。スタイルメイトは詰みでは無いので当然かと思えます。

★作品は、2手目までは必然で、それ以降は5段目でのGと点鏡によるやりとりで見事な「一」が出現します。後手持駒はGのみにした方が解答者には優しかったかなとも思います。余詰扱いという結果は残念でしたがルールについて考えるよい機会になったと思えます。

ラルバ

最初のキーは、点鏡ルールを利用し、自玉が五段に移動することです。6手目の逆王手後の局面はほぼ詰みみたいですが、7五Gの「手筋」はあるので、続行できます。最終形で、攻方Gが移動なら、受方玉が王手をかける状態になります。G利きの自玉が移動なら、6五か2五かしかありませんが、前者はG利きの受方玉の利き、後者は中央のGの利きです。立派なスタイルメイトです。

The first key idea is to get the attacker's king to the fifth rank using the "point reflection" rule. After the counter-check at move 6 it almost seems like a self checkmate, but the "tesuji" 7五G keeps the ball rolling. In the final position, the grasshopper must stay in place to stop the defender's king from giving check, while the king can only move as a grasshopper to 6五 or 2五, but the first is covered by the defender's king moving as a grasshopper, and the second is covered by the grasshopper in the center. Nice stalemate.

ただし、少し異なる着手で、同様の結局に至ります。

However, there is a slightly different way

to achieve a similar ending.

3五歩 2五玉 6五G 5五角・銀 4五玉  
3五玉 7五G 6五歩 まで？

最終の打ち駒は歩なら、中央の駒は4四の利きがあるだけでいいです。もちろん、これは「打歩スタイルメイト」です。だけど、「打歩詰」は禁じ手ですが、「打歩スタイルメイト」は禁じ手というルールがありません。実に、七郎によると、fmzaは「協力自玉スタイルメイトで最終手打歩が打歩詰と同じ扱いを受けて除外される」不具合あった、6.007.125版で修正された。ソフトウェアの不具合なので、こんな美しい作品に余詰を気づかれないままになったら、残念だと思います…

With the final drop being a pawn, we only need the piece in the center to cover 4四. Of course, this would be a "pawn drop stalemate". However, while "pawn drop checkmate" is forbidden, there is no special rule about "pawn drop stalemate". Indeed, Shichiro has stated that it was a bug that fmza "considered pawn drop final moves as pawn drop mates, and thus excluded them, in helpselfstalemate problems", and it is fixed in 6.007.125. I guess it is unfortunate if this bug caused a dual solution in an otherwise beautiful problem to go unnoticed...

変寝夢（無解）

VM2では3解になりました。最終手歩を除いた解（最後G打）が詰め上がりも綺麗なので作意なのかな

占魚亭

45王からは点鏡ルールを活かした濃密な手順。本当にスタイルメイトになっているか不安になりました。

橋本孝治（無解）

それらしい紛れはいくつかあったのですが、「解けた」→「勘違いだった」の繰り返しで答えに辿り着けませんでした。残念です。2番はfmzaを使って答えを見ました。この筋は早い段階で読んでいたのですが、6手目で

「詰んでしまった」と勘違いして、まだ受けがあるのを見落としていました。

★確かに6手目で詰んでいるようにも感じますね。点鏡特有の利きを良く見直すことが大切かもしれません。

③ 神無七郎作  
協力詰 19手  
持駒 零5

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				零					一
			王						二
		零	飛						三
					王	零			四
					零	零			五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【Zero】(零)

(0,0)-leaper。現在位置に移動する。行き所のない駒にはならない。

【作者コメント】

令和にちなんで「零」を使った作品です。19手詰なので2019年の改元にも合うと思います。5月改元なので受方持駒や盤上の零が5枚……というのはこじつけで、余詰防止が本当の目的です。

43 飛生 34 玉 23 飛成 35 玉 33 龍 34 零  
24 龍 45 玉 25 龍 35 零 36 龍 44 玉  
46 龍 45 零 55 龍 43 玉 52 龍 44 玉  
53 龍 まで 19手



詰上図

後手の持駒：零5

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				零					一
			玉						二
		零		龍					三
					王	零			四
					零	零			五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者説明】

「零」は元の位置に動く駒なので、これで王手することはできません。しかし、合駒としてなら盤上に発生させることができます。本局はこの性質を強調するため、攻方の零が受方へ変わるように構成した例題用作品でしたが、手数が19手、零が受方・攻方5枚ということで、今回の作品展に投稿することにしました。

なお、受方持駒の零が4枚だと、合駒不足のため以下のような早詰があります。

54 飛成 33 玉 63 龍 53 零 同龍 32 玉 52 龍 42 零 43 龍 31 玉 33 龍 32 零 22 龍 41 玉 11 龍 21 零 同龍 まで 17手 駒余り 零 2

★不思議な駒「零」を使った作品。たとえば零がその場に移動する順を含む作品は出来るのだろうか？なんて考えてしまいます。(出来たら教えて)

★私も投稿時には解が書かれていない図を頂きましたので、解図して七郎さんに解答を送って正誤判定したあとで作意手順を送って頂きました。(④もそうです)これは見た瞬間に詰上りが思い当たりました。だって七郎さんですもの…絶対そうなる。3筋4筋の攻方零が受方零に替わって壁駒となり53飛が龍になっての詰上り。初形と詰上図の対比が見

事の一言です。ちょっと不自然な後手の持駒：零 5（ラルバ氏も頭を捻っています）の謎も作者説明に書かれている通り見事なまでの余詰防止でした。

ラルバ

初形と詰上りはよく似ているのは、ヒントのようなものです。余詰防止は面白いですが、実に受方持駒がどんな余詰を防止するのか、読まないです。

The initial position is so similar to the final position, it's almost like a hint. The dual prevention aspect is interesting, although I didn't actually see a dual solution prevented by the additional pieces in the defender's hand...

変寝夢（無解）

合利かずの詰め上がりかと思えば、4枚の属性を変えた詰め上がりでびっくり。

占魚亭

初形と詰上りの差異を見事に演出。名品！

④ 神無七郎作

協力自玉スタイルメイト 42手

										9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			と	と															一
			と	と															二
			と	と															三
			と	と															四
			と	と		馬	馬												五
			と	と		と													六
			と	と	王	歩													七
			歩	歩															八
					王														九

持駒 n飛

【中立駒】

どちらの手番でも動かせる駒。

[補足]

横向きの字か横に n を付加して表記。取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1)中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる（利きが非対称な駒の場合に要注意）
- 2)中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3)中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4)中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5)二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6)中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7)中立駒でも自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

【作者コメント】

そう見えないかもしれませんが、これも「19」と「5」に関連しています。

79n 飛 78n 飛生 79n 飛 77n 飛生 79n 飛 76n 飛生 79n 飛 75n 飛生 79n 飛 74n 飛生 79n 飛 73n 飛生 79n 飛生 72n 飛生 79n 飛生 71n 飛生 79n 飛生 69 銀 同 n 飛 68n 飛生 69n 飛 67n 飛生 69n 飛 66n 飛生 69n 飛 65n 飛生 69n 飛 64n 飛生 69n 飛 63n 飛生 69n 飛生 62n 飛生 69n 飛生 61n 飛生 69n 飛生 68n 飛生 48 銀 同 n 飛生 49n 飛 47n 飛生 49n 飛 46n 飛生 まで 42手

詰上図

										9	8	7	6	5	4	3	2	1	
																			一
																			二
																			三
																			四
															馬	馬			五
															飛				六
															玉				七
																			八
															王				九

持駒 なし

【作者説明】

中立駒の飛車で歩（と金）を消していく作品ですが、歩の並びが3つの筋にまたがっているので、筋の切替えが必要になります。

この切替えのため銀を使うのがちょっとしたアクセント。最初は合駒として受方が銀を打ち、7筋から6筋への切替えを行い、次は攻方が王手で銀を打ち、6筋から4筋への切替えを行います。

手番が違っても同じ駒で取れるところに中立駒の特徴が出ていると思います。元々は「第49回神無一族の氾濫」用の予備作として用意していたものですが、中立飛で19枚の駒を取り、盤上5枚で収束するというので、今回の作品展に転用することにしました。

★今回の問題作2。私も凶面だけ頂きましたのでとりあえず解図して七郎さんに解答を送りました。（下の解答）

69n 飛 68n 飛生 69n 飛 67n 飛生 69n 飛 66n 飛生 69n 飛 65n 飛生 69n 飛 64n 飛生 69n 飛 63n 飛生 69n 飛生 62n 飛生 69n 飛生 61n 飛生 69n 飛生 68n 飛生 58n 飛 78n 飛生 79n 飛 77n 飛生 79n 飛 76n 飛生 79n 飛 75n 飛生 79n 飛 74n 飛生 79n 飛 73n 飛生 79n 飛生 72n 飛生 79n 飛生 71n 飛生 79n 飛生 78n 飛生 58n 飛 48n 飛生 49n 飛 47n 飛生 49n 飛 46n 飛生 迄 42手

すると七郎さんより「間違ってます」の返信がありました。そこに書かれていたのは、

「58n 飛」が次に自玉を取られてしまうので指せません。

上の順の19手目58n 飛が自王（57王）に王手をかける手になっており王手放置の禁手だったので。6筋の駒を消去して58n 飛～7筋へ移動して7筋の駒を消去して58n 飛～4筋へ移動して4筋の駒を消去して収束という流れがピッタリ42手となるため作意と勘違いしてしまうのです。その後には届いたラルバ氏と変寝夢氏の解答も見事に同じ順に嵌っていて、なんと作者以外の正解者0というビックリする結果になっ

てしまいました。でもなぜ58n 飛と指してしまうのか？全く持って変な先入観ですが、私の場合は「協力詰だから先手王に王手がかかっている後手は取らない手を指せる」と思ってしまっただけという事です。よく考えれば普通の逆王手でも放置しないのと同じ理屈ですので考え方が間違っていましたね。

★では58n 飛を指さずにどうやって筋を移動するのか？答えは7筋から初めて取りきった後、79n 飛に69銀と合駒をしてそれを取り6筋に移動、6筋を取りきった時、68n 飛に対して取った銀を48に打ち同n 飛で4筋に移動するというものでした。ちょっと考えれば分る順だけに偽作意（作者は思っていないですが）が余りにも気持ち良過ぎたのが原因でしょうか。

ラルバ（誤解）

攻方九段の着手は19手、受方取らず着手は5手です（あるいは、攻受双方とも4筋の着手は5手?）。

The attacker makes 19 moves on rank 9, and the defender makes 5 non-capturing moves (or, both sides together make 5 moves on file 4?).

変寝夢（誤解）

「5（詰め上がり）、19（初形先手の盤面枚数）かな。中立駒は生の表記がややこしい。」

⑤ たくぼん作

強欲協力詰 11手

										一
										二
			銀	皇						三
			歩		銀					四
			香	歩						五
			王		銀					六
			王		飛					七
										八
										九

持駒 なし

【強欲】駒を取る手を優先して着手を選ぶ。

【作者コメント】

まあお約束の強欲協力詰です。短手数ですのでお気楽に解いてください。

67 飛 同玉 66 金 同玉 57 銀 65 玉  
54 銀生 64 玉 53 銀右生 55 玉 56 香  
まで 11 手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
				銀					三
				銀					四
				王					五
				香					六
				銀					七
									八
									九

持駒 なし

★ まあお約束の展開です。元々は例題か巻頭くらいで紹介予定の作品でしたが、七郎さんから2題、太郎さんから2題と投稿が届きバランスを考えて私も2題とした次第。

ラルバ

ほぼ一本道の手順でも、素敵な詰上りです。「令」和の R→I 立体曲詰。

Almost completely straightforward, but the final shape is pretty.

An "R -> I" composition for "Rei"wa.

変寝夢

これでも一瞬54銀が見えない。R1 と S45 じゃあえらい違いですなあ。

占魚亭

Rがさらっと1に変化。流石ですね。

橋本孝治

R1で令和元年ですね。普通詰将棋だと「1」

の曲詰は収束に限られるので、R1の立体曲詰の創作は難しいはず。それがアッサリできてしまうのが強欲協力詰らしいところです。

⑥ たくぼん作 (正解者2名・余詰)

安南詰 65手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	ス						歩		一
		と				歩		馬	二
香	歩			金		銀			三
馬					歩	銀			四
			王	歩	銀				五
料	桂		歩	銀				桂	六
		歩	銀						七
歩		馬							八
								香	九

持駒 飛金2香2歩3

【安南】

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

【作者コメント】

改元には余り関係ないのですが、令和になって完成した1号作品。「安南詰全集 小西寛」を紹介したことに佐藤達也さんからお礼のメールをもらい、ちょっと奮起して安南作品を創ってみました。99手の七郎さんの作品には及びませんが楽しめると思いますので是非解いてみて下さい。

75 金 同玉 74 飛 86 玉 87 香 同玉  
99 金 86 玉 87 香 95 玉 94 飛 同玉  
85 金 83 玉 84 金 72 玉 83 歩 71 玉  
72 歩打 同と 同歩成 同玉 83 金 71 玉  
72 歩 61 玉 73 金 51 玉 62 金左 41 玉  
42 歩 31 玉 43 金 22 玉 33 金 同歩  
32 飛 23 玉 12 飛成 同玉 24 桂 23 玉  
32 角 24 玉 14 角成 35 玉 25 馬 46 玉  
36 馬 57 玉 47 馬 68 玉 58 馬 79 玉  
89 金 24 玉 14 馬 35 玉 25 馬 46 玉  
36 馬 57 玉 47 馬 68 玉 58 馬 まで 65 手

(余詰順)

75 金 同玉 74 飛 86 玉 87 香 同玉  
 99 金 86 玉 87 香 95 玉 94 飛 同玉  
 85 金 83 玉 84 金 72 玉 83 歩 71 玉  
 72 歩打 同と 同歩成 同玉 83 金 71 玉  
 82 歩 61 玉 72 歩成 51 玉 62 と 41 玉  
 42 歩 31 玉 43 金 22 玉 33 金 同歩  
 32 飛 23 玉 12 飛成 同玉 24 桂 23 玉  
 32 角 24 玉 14 角成 35 玉 25 馬 46 玉  
 36 馬 57 玉 47 馬 68 玉 58 馬 79 玉  
 89 金 24 玉 14 馬 35 玉 25 馬 46 玉  
 36 馬 57 玉 47 馬 68 玉 58 馬 まで 65 手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							歩		一
		歩	金		歩				二
香						歩			三
					歩	馬			四
				歩	馬				五
歩		歩	馬						六
	香	歩	馬						七
歩		馬	王	馬					八
	金							香	九

持駒 なし

★橋本さんより「利き二歩有効の仮定で解いたのですが、このルール設定はフェアリーランドとは異なるので、明記しておいた方が良いと思います。」とメールを頂きました。まさにその通りで失礼致しました。おまけに 25 手目より 82 歩以下似たような順の別手順があり余詰でした。この辺りの順は創作中に結構苦労した部分だったので何故この図を完成図としていたのか自分でも不思議で解答者の皆様失礼致しました。橋本さんの短評にあります。途中からの逆算を再考していざれ修正図を発表したいと思います。

占魚亭

手数にたじろいだ、手を出してみたら思いのほか易しかった。14 角成からの追い手順が楽しかったです。

橋本孝治 (双方解)

31 手目 42 歩が歩を 1 枚余分に使って金を活用する面白い手。これで斜追いの趣向に入りますが、序盤に据えた 99 金が活用されて、もう一度斜追いが現れるのは嬉しいオマケです。ただ、これが作意だとすると、21 手目の成・不成非限定や、25 手目から 72 歩、61 玉、63 金以下の手順もあって、何だかスッキリしません。私の感覚だとこれは余詰なので、逆算の方針に疑問が残ります。

【総評】

ラルバ

①～⑤を解答しました。⑥も試しましたが、対抗系作品が苦手です。玉の逃げ場は広く、9 三玉あとの変化は特に読みにくいです。

I solved the first five problems. I also tried the last one, but I'm not good at solving adversarial problems. There seems to be too many places the king could escape to, and the variations where the king goes to 9 三 is especially hard to read.

★余詰指摘等ありがとうございました。素晴らしい解図力に感心しています。どちらの国の方なのでしょう？

変寝夢

改元なのに西暦？と思いましたが、固い話はなしということで。令和、平和な時代であってほしいものです。

★twitter でもいろいろ指摘があったようですね。でもそんなところが WFP という事でしょう。

詰将棋全国大会行ってきました。これまでで一番いろんな方と話しをしたと思います。「TAROTRAILS」を配布したおかげか近くに七郎さんがいたおかげですかね。

大野孝さん：

受付まで時間を潰していたスタバで近くの席でした。大野さんは佐藤達也さんと待ち合わせだったようで、帽子と眼鏡という格好が佐藤さんと同じだったので危うく間違いそうになったとか。

佐藤達也さん：

書籍販売ブースが隣りでした。会場の一番端。柴田さんからは「ここ（佐藤さんの販売ブース）からこっち（私の販売ブースの方）は変なの（フェアリー）」とからかわれました。最近復活した出口信夫さん、「でくのぼう」と読むらしいという情報をいただきました。全国大会参加は30年振りとのことでした。

柴田昭彦さん：

三百人一局集の写真から勝手に強面と想像していたのですが、なんだかとても気さくでおしゃべり好きなおっちゃんでした。

上田吉一さん：

七郎さんや三郎さんは知っているけど、太郎さんは知らなかったと声をかけていただきました。柴田さん同様きさくなおっちゃんでした。意外です。

小林敏樹さん：

真面目を絵にかいたような方でした。TAROTRAILSについて「なんで只なんですか」と。神詰大全などきれいに作ってあるとほめていただきました。

濱田博さん：

次郎さんと混同されていたようで「f mを作っている方ですか」と聞かれました。

藤原勝博さん：

結構年取ってからフェアリーを始めたそうです。私はもっと若い（高校生くらい）かと思っていたので、そう言ったらやたら恐縮されていました。

吉田直嗣さん：

作品に似合わず極めて温厚な感じを受けました。

小泉潔さん：

Limit7をいただきました。顔は知っているつもりでしたが、どうも池田俊哉さんと勘違いしていたようです。

堀内真さん：

とっても紳士な方でした。TAROTRAILSも「私なんか貰ってもいいんですか」と。

加藤徹さん：

数年前に富士通を早期退職されていて、でもまだ沼津在住。「まだ同じところにいるんだよねえ」みたいな話をしました。TAROTRAILSが余ったらおもちゃ箱の景品にしたいとのことだったので、帰り際に残った2枚を渡してきました。

上谷直希さん：

昨年大学を卒業して松江で研修医をしているとのこと。昨今、無報酬の勤務の騒ぎがあったので、逆にとても健全な勤務らしいです。来年鳥取に戻る予定。で、フェアリー入門、名作集の発行を高坂さん？が企画していてそれに巻き込まれている様子。七郎さんがさんざん意見？していたようです。別途、私なりにアドバイスしようかと思っています。

会場健大さん：

透明駒やっている人ですかね。

他にもいたかも。帰りの新幹線の都合（三島に停車する「ひかり」がとっても少ない）で、集合写真の前に帰らなければならなかったのは残念でした。次の参加はいつになるのやら。

太郎

## 解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

### 2019年8月15日(木)

第111回 WFP 作品展 111-9 (再出題)

第112回 WFP 作品展

フェアリー作品 15題

推理将棋 1+2題

最後のやさしい(?) Imitator

Imitator 作品 3題

## 作品募集締切一覧

### Fairy of the Forest #60

協力詰 (自由課題)

投稿締切: 2019年8月15日

投稿先: 酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

※詳細は先月の WFP132号 P44 をご覧下さい

### 第51回神無一族の氾濫

※詳細は本号の P19 をご覧下さい

### 【あとがき】

先月号で井上順一さんの訃報をお知らせしました。本当に残念なことです。井上さんは数は多くありませんが、作品を發表されていますので紹介します。

詰パラ 1982/2月 ばか自殺詰 8手

			王		角					
						角				
						玉				
						飛		飛		

持駒 なし

44 角成 53 桂 51 角成 63 玉 41 馬 52 香  
45 馬 同桂 迄 8手

★両王手の駒(桂香)を合駒で出す。初形からは想像付き難いのが売り。

将 1989/1月 ばか自殺詰 8手

				王		銀				
						玉				
						飛				
						角				

持駒 なし

77 飛 76 角 64 銀 同玉 46 角 55 桂 67 飛 同  
角成 迄 8手

詰パラでも似た筋の6手の作品があったが、お気に入りの詰上りなのかもしれない。初手動かした飛をスイッチバックさせるのはいい味。発表作は、ばか自殺詰の割合が多いようです。

全国大会は130名を超える大盛況だったようですね。太郎さんのレポート以外に Pontamon さんも参加されていたようです。私も行きたかったな。 たくぼん

2019年 第133号

### Web Fairy Paradise

非売品

令和元年七月号

令和元年七月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合先

須川卓二 takuji@dokidoki.ne.jp